

# 職務経歴書

平成 28 年 月 日

梶浦孝広

〒492- 稲沢市

(0587)

090-

## 《 応募職種 》

高等学校教諭 [情報]、[公民]、[リクルート]

## 《 最終学歴 》

平成 24 年 3 月 早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科 卒業

## 《 略歴 》

- ・ 歯科技工専門学校卒業後、昭和 59 年 4 月にサンデンタルラボラトリー（現 株式会社サンデンタルラボラトリー）に勤務し、臨床における歯科技工の基礎技術を身に付けるとともに、専門的スキルアップを目的として、勤務 1 年後から夜間の学校（社会人向けスキルアップコース）に通いセラミックスに関する専門技術を習得。コース修了後は、専門学校の非常勤講師にて後進の指導をし、翌年には、当時超最先端医療であったインプラント治療に関する新技術を、業界誌の連載にて発表。
- ・ 社会人 4 年目：スキルの幅を広げることを目的として渡欧（昭和 62 年～平成 4 年：スイスの首都 Bern）し、日本人や知り合いが全く居ないグローバルな環境の Bush Dental ag Bern に入社。渡欧 2 年目の世界技術コンクールで銀賞受賞した後 Bern 支社チーフ就任を経て、マイスター制度環境下で高度な技術と多国籍の職場の組織化（品質の向上・管理）のスキルを獲得した。
- ・ 社会人 8 年目：帰国後の平成 4 年 株式会社カスプデンタルサプライ（現在、クレリタデンタル 株式会社）にて営業を担当した後、N.Y. 支社（マンハッタン）短期勤務を経て、営業所新規開設を任せられ、所長として軌道に乗せた。
- ・ 社会人 12 年目：平成 8 年に開業し、後ろ盾の看板のない営業・経営を体験しながら、勉強会等にて自己のスキルアップと後進指導をした。そうした中、平成 20 年生涯学習として大学に入学し、その後、人間を科学的な視座で研究する目的で齋藤美穂（早稲田大学理事）研究室のゼミ生となり、その研究成果を学会にて発表した。現在は、愛知県・岐阜県の公立高等学校（進学校）および私立高校（4 つの教育機関）にて、必修教科「情報」（2 コマ/週：週 2 時間を 1 年間）を担当している。

《 職務経歴 》

職 務		職務内容
<b>1</b> サンデンタルラボラトリー (昭和 59 年～昭和 62 年) (計 3 年)	臨床の補綴	セラミックを用いた自費治療の補綴 ・主にインプラント製品、ミリング (切削) などを担当
	非常勤講師	専門学生への教育 (毎週 1 日) ・専門の学科・技術の教育と専門職への動機づけ ・医療従事者としての姿勢、人間性を指導
<b>2</b> Bush Dental ag Bern (スイス国内 3 店) (昭和 62 年～平成 4 年) (計 5 年)	技術者 (計 2.5 年)	セラミック・貴金属を用いた、審美・精密金属加工一般 ・製品の精度の向上
	チーフ (計 2.5 年)	組織化 ・多国籍・多文化 (スイス、ドイツ、イタリア、オランダ、アメリカ、アフリカ、中国等) の統括と品質管理教育 ・徒弟制度の学生とスタッフの育成 ・Bern 大学 歯学部学生の歯科技工部門の指導
<b>3</b> 株式会社カस्पデンタル サプライ (平成 4 年～平成 8 年) (現ケレリカデンタル株式会社) (計 3 年 5 ヶ月)	本社勤務 (計 8 ヶ月)	営業 ・技術者による新規開拓の営業活動 組織化 ・N.Y.支社 (マンハッタン) 内の統制 (約 3 ヶ月間)
	岐阜支店 所長 (計 2 年 9 ヶ月)	営業 ・関連会社の海外 (韓国・中国) のセミナーおよび展示会ブースとクレーム処理を担当 (Noritake Co., Limited デンタル事業部) * Noritake porcelain インストラクター 就任 韓国技術指導開始 一般企業対象 (平成 5 年 8 月～) 中国技術指導開始 歯科大学 歯科医師対象 (平成 6 年 4 月) (新聞報道される) 組織化 ・岐阜支店の運営 (経営・品質管理・スタッフ育成)
<b>4</b> 開業 屋号 SEELE (ゼーレ) (平成 8 年～現在) (計 19 年)		営業 ・後ろ盾のない新規開拓営業 ・個人事業の総合病院へのアプローチと対応 (技術・情報の提供やリスク回避等の密なコミュニケーション) 製造/教育 ・クオリティーの維持・管理と信頼性の確保 ・研修スキームの構築 (研修センター落成) スキルアップ・教育システムのクリエーション
	非常勤講師	愛知県立某高等学校: 27 コマ/2 週 (65 分授業) + 私立高校 (4 つの教育機関)

## 《 取得資格等 》

### 【 資 格 】

昭和 57 年 3 月：普通自動車第 1 種免許 取得（中型 8t 限定 MT 第一種免許）  
昭和 59 年 3 月：歯科技工士免許 取得（厚生大臣）  
平成 9 年 6 月：二級小型船舶操縦免許 取得  
平成 24 年 3 月：高等学校一種教諭免許 取得 [情報]  
平成 25 年 3 月：早稲田大学 人間科学部 学位  
平成 25 年 12 月：フォークリフト運転技能講習 修了 / 玉掛け技能講習 修了  
平成 26 年 1 月：大型自動車運転免許 取得（車両総重量 11t 以上、乗車定員 30 人以上）  
平成 26 年 1 月：小型クレーン技能講習 修了  
平成 26 年 3 月：乙種第 4 類危険物取扱者免状 取得  
平成 26 年 9 月：第 2 種電気工事士免状 取得  
平成 26 年 10 月：運行管理者資格者証 取得 [貨物]  
平成 26 年 11 月：高等学校一種教諭免許 取得 [公民]  
平成 27 年 3 月：認定電気工事士認定者証 取得  
平成 28 年 6 月：個人情報保護士 認定証 取得（マイナンバー対応）

### 【 パソコンスキル 】

Word & Excel：通常の記事作成や集計・グラフの作成と統計の操作可能  
Power Point：プレゼン資料の作成とプレゼンテーション  
HTML：通常 HTML 言語の記述  
SPSS：通常統計分析（3 要因の分散分析 [ 対応あり ]）  
Mac：通常 Mac OS 上の操作（Keynote / Photoshop の基本操作可能）

## 《 賞・表彰 》

昭和 59 年 3 月：愛知県知事賞（歯科技工）  
平成 63 年 11 月：第 2 回世界歯科技工学術大会テクニカルコンテスト銀賞受賞（10 年に一度開催）  
平成 24 年 9 月：愛知県警察署（15 年間無事故無違反）（現在も継続中）

## 《 自己 PR 》

### 【細かい数字等の作業を正確に処理できます】

もともと手抜きは嫌いで、寸法や数字が合わない場合にはほとんど原因を追求し対処するタイプでした。そして、職業柄、製品の精度や帳簿等のデータ値の細かい数字を、正確かつ迅速に処理するスキルを徹底的にたたき込んできた結果、各事象に応じた信頼性と妥当性の検証ならびにその処理ができるようになりました。

### 【人とのコミュニケーションが得意です】

人種や異文化を問わず、初対面の方でも人見知りせず話しかけられることができ、たとえ相手の

言語が理解できなくても、ノンバーバルコミュニケーションを生かすことができます。また、製造と営業ならびに、雇用する側とされる側の両方を経験していることから、相手の立場を尊重し、積極的な傾聴姿勢にてより良いコミュニケーションをとりながら、明るい雰囲気を作ることができると自負しております。

### 【プレゼンテーション力もあります】

講師・演者等の経験から、様々な場面に応じたプレゼンに必要な情報を徹底的に調べた上で、オーディエンスに対してインパクトを与え記憶に残る、効果的なプレゼンテーションの作成と実行には自信があります。

## ◀ 備考 ▶

### 【主な講演・発表】

- 1988年 6月 17, der Arbeitsgemeinschaft Dentale Technologie (ドイツ) 【マルチ-レストレーション】  
1993年 10月 第14回日本口腔インプラント学会中部支部総会(朝日大学) 【インプラント上部構造体について】  
1994年 4月 3rd World Congress for Oral Implantology (パシフィコ横浜) 【A study of the Implant Superstructure】  
1999年 9月 SJCD 合同例会(愛知芸術文化センター) 【適合へのこだわり】  
2012年 5月 日本色彩学会第43回学会全国大会(京都大学) 【歯科領域における面積効果に関する検討】  
etc

### 【主な発表文献】

- 1986年 『インプラント上部構造体製作の問題点』: 遊離端欠損におけるインプラント上部構造体の製作 ~部分床養歯への移行とセメントによる浮き上がりを考慮した作成法~ 歯科技工, VOL.14 NO.6:673~686  
1986年 『インプラント上部構造体製作の問題点』: セメントによる内外冠の浮き上がりどのように防止するか 歯科技工, VOL.14 NO.6:687~693  
1986年 『インプラント上部構造体製作の問題点』: 遊離端欠損インプラント上部構造体において部分床養歯への移行をどのように防止するか 歯科技工, VOL.14 NO.6:694~701  
1986年 『インプラント上部構造体製作の問題点』: 下顎総養歯の維持力増強装置をどのように作るか ~I.T.I 中空シリンダ・インプラント支台の場合~ 歯科技工, VOL.14 NO.6:702~709  
1988年 『技工室における近接撮影テクニック(上)』 ~カメラレンズとフラッシュについて~ 歯科技工, VOL.16 NO.5:551~558  
1988年 『技工室における近接撮影テクニック(下)』 ~MINOLTA α-9000を中心とした接写テクニック~ 歯科技工, VOL.16 NO.6:721~732  
1988年 『OPTECシステムのオルセマックス補綴物の製作』 ~耐火模型材を備えた作業用模型の製作およびサトベイクテクニック~ 歯科技工, VOL.16 NO.10:1079~1092  
1988年 『OPTECシステムのオルセマックスインレ・アンレへの応用』 ~製作時の注意点, 製作技法およびその問題点~ 歯科技工, VOL.16 NO.11:1215~1226  
1989年 『リジットサボットの有床養歯への移行と審美性を考慮したトータルセラモメタルレストレーション』 歯科技工, VOL.17 NO.3:  
1989年 『ハイブリッドフィラ型光重合レジンインレ修復テクニック』 Quintessence of Dental Technology, VOL.14/1989: September 1183~1190  
1990年 『"Box-Geschiebe" とピンロック。ボンディングテクニックを用いたコンポジション養歯の製作 "SPACER-TECHNIK" 歯科技工, VOL.18 NO.1:61~73  
1990年 『Incollaggio in alternativa alla saldatura』 La Quintessenza Odontotecnica, Settembre 1990 Rif.nr.624:803~814  
1990年 『Inserimento di elementi prefabbricati di precisione mediante tecnica di incollaggio』 La Quintessenza Odontotecnica, October 1990 Rif.nr.634:935~945  
1990年 『El pegado en sustitucion de la sodadura』 Quintessence tecnica (Edicion espanola) Noviembre-Diciembre 1990 Volumen 1, Numero 2 76~88  
1991年 『NEW Implant system "Ha-Ti Implant"』 ~その概要と特徴そして術式~ 歯科技工, 19 NO.7:747~759  
1992年 『ボーン・アンカト・フルブリッジ補綴の現状と可能性 (I)』 ~上部構造のあり方~ Quintessence of Dental Technology, VOL.17/1992: September 1103~1115  
1992年 『ボーン・アンカト・フルブリッジ補綴の現状と可能性 (II)』 ~I.G.Bテクニックによる上部構造の製作~ Quintessence of Dental Technology, VOL.17/1992: October 1229~1243  
1992年 『Masterpiece: I.G.B Technique による金属燃付ボーン・セラ・プレス・コア・デンチャー』 Quintessence of Dental Technology, VOL.17/1992: December  
2012年 『歯科領域における面積効果に関する検討』 日本色彩学会誌 36号 2012.05.01 P116-117  
etc